【ねがいましては】

平成２５年１月２５日　　*KYOWA SCHOOL*
第２６７号

「誰かが君を見ている」

小田和正さんの曲、「今日もどこかで」の詩の中に、「誰かがいつも君を見ている」という１フレーズがあります。この１２文字の中に、溢れるほどの想いが感じられます。「ひとりではないんだよ」「どんなにダメでもいいんだよ」「笑顔を見せてね」「見守っているからね」「いっしょに歩こう！」「おいっ！　元気だそうか！」「・・・・・」

まだまだいっぱいあるのでしょうね。

でも私は最後の「・・・・・」がもっとも響くような気がします。

言葉などいらない、そっと見ていてくれる。それ以上の愛情はいらない。言葉というものがとても安っぽく感じられる。

勉強というものが、成績というものが、親と子の間に立ちふさがり、親は子に本当の胸のうちをなかなか伝えられず、つい感情が先に出てしまう。子は精一杯に取り組んでいるにもかかわらず、結果が前に出ず、親から信頼の目で見てもらえない。

交わす言葉・・・。学校のこと、勉強のこと、成績のこと・・・。寂しさが漂うばかり。

そしてまた小田さんの曲、「風のように」の中に、「そして僕は 強くなるより やさしくなりたいと思う」

このフレーズが真のご家族がご家族皆に寄せる心なのではないかと・・・。

家族がお互いに想いを寄せ、助け合う。そこから誰にもまねのできない強いものが生まれる・・・。

そこにあるもの・・・「信頼」

子が親のやさしさに純粋に触れることが何回あるのでしょうか。親はそのつもりで子に触れていると思っていても、子自身が「やさしさ」であると感じなければ意味はありません。やさしくすると思い上がってしまい、わがまま放題になってしまうから・・・。やさしくすると、甘えん坊になってしまうから・・・。そう思われる方もいらっしゃるかもしれません。

実はそれは、身から出たさびなのではないでしょうか。ちょっと厳しい言い方かもしれませんが、子からの信頼に欠けた部分があったとすれば、きっと子はわがままで甘えん坊になってしまうかもしれません。

子にとって、誰かがいつも見ていてくれることは、安心を与えることになります。子にとって、誰かがいつも見ていてくれることは、絶対に悪いことなどできません。それは叱られるからではなく、見つめてくれる人のこころを痛めてしまうことを知っているからです。誰かがいつも見ていてくれることは・・・誰でもいいのです。その人に恩返しがしたくなります。

私が子どもたちを見つめ続けてきて強く感じるもの、「人のために生きようとする」ことです。本来持っている人への思いやりがここでは開花します。その光景がもっとも色濃く出るのが「ランチ講習」です。昼食が終わり、誰となく洗い物を始めます。そして誰となくふきんを持って洗いたての食器を拭きます。水を切ってからと思うのですが、そこは助け合いの気持ち優先です。男女関係なくその光景は繰り返されます。

見学のお客様がいらっしゃった時にも、その光景は現れます。誰となくイスを持ってくる。誰となくお茶が用意される。私は特にそう行動を取ったからといって褒めるわけでもありません。なぜかそうなるのです。

子は時に失敗をします。当たり前のこと・・・。その失敗の原因が悪いと知ってのことか、それとも予期しない失敗か・・・。それによって、叱る、叱らないが発生します。明らかに自らの心の弱さが原因で起こってしまった失敗に関しては叱らせていただいています。そしてほとんどと言ってよいくらいに最後に付け加えている言葉が、「何が良くて何が悪いかは自分が考えて動こう。」です。

どうしても学校生活の中では、「マネ」が起こりがちです。いじめの走りがそれに似ています。あの子があの子をいじめている、だから私だって少しくらい・・・。まさに「赤信号、みんなで渡ればこわくない」１００％。

ここではそれぞれが自分の道を思い思いに歩きます。一斉授業がありませんので、それぞれの顔が違うように、歩き方も違います。ですからそれぞれがお互いの生きる道を、敬意を持って見つめています。たとえ中学３年生が九九をやろうとも、「勇気があるなー」と、敬意を払います。それが極々自然な光景になります。きっと誰かがそんな子を見つめていてくれているのでしょう。それは私なのかもしれません。友だちなのかもしれません。でも、もっとも見つめていてほしい人は・・・きっとご両親に違いありません。

どうか我が子に対し信頼を抱けずにいらっしゃるお母さま、お父さまがいらっしゃったとしたら、いつでも結構です。抜き打ちで結構です。この小さな空間に流れる空気をご覧になってください。いちばんアホでバカなことをやっているのが私です。

私はくしゃみのことを「くしゃみっ！」と、言います。誰かが必ず言います。「心臓が止まるかと思った。」私はすかさず切り替えします。「お願いだから一度だけでいいから、心臓止まって！」それでも、黙々と真剣に向かい続ける諸君！

こころから「ありがとう」・・・・・そっと見ているからね！　安心して向かってね！　「・・・・・」